

# そばの放射性セシウム吸収抑制対策について

令和2年4月  
宮城県農政部

県内の令和元年産そばの放射性セシウム検査の結果、検査を実施した33点全てが基準値（100ベクレル/kg）未満であったものの、6点で放射性セシウムが検出された（2.9～7.0ベクレル/kg）。

土壌中の交換性カリ含量が低いほ場では、そばの放射性物質濃度が高くなることが懸念されるため、必要に応じ、下記の放射性セシウムの吸収抑制対策を行うこと。

## 1 土壌中のカリ含量を意識した土づくり

- ◆土壌中のカリが不足していると、そばが放射性セシウムを吸収しやすくなるので、下の表を参考にカリ肥料の施用を行う。特に、過去にそばの放射性セシウム濃度が高かった地域や土壌中のカリ含量が低いほ場では、積極的にカリ肥料を施用する。
- ◆そばは、発芽期～開花期（は種後20日～40日頃）にかけて、セシウムを盛んに吸収するので、生育初期にカリを効かせるよう、速効性のカリ肥料（硫酸カリや塩化カリ）を、基肥として施用する。

表：想定される土壌中の残存量及びカリ肥料散布量の目安（作土深：15cmの場合）

土壌中の交換性カリ含量の目標：30mg/100g程度	
○カリ含量が低いと想定されるほ場 （土壌中の残存カリ含量： 10mg/100gと想定） ・長年、堆肥や稲わらを入れていないほ場 ・長年耕作をしていないほ場 ・砂質土壌などの保肥力の弱いほ場 等	◎10a当たりの散布量（現物量） ・塩化カリ：40kg程度 又は ・硫酸カリ：50kg程度
○上記以外のほ場 （土壌中の残存カリ含量： 20mg/100gと想定）	◎10a当たりの散布量（現物量） ・塩化カリ：25kg程度 又は ・硫酸カリ：30kg程度

- ◆過去にそばから高い濃度の放射性セシウムが検出された地域では、表中の目標量よりも更に増肥することを検討する。(カリ含量50mg/100gが上限)
- ◆堆肥や稲わらは、カリが豊富なためセシウムの吸収抑制に有効であることから、基本の土づくりを行う。

## 2 適切な作土深を確保する

- ◆耕うんが浅いと土壤表層に放射性セシウムが留まり、そばの根もこの層に集中するため、そばが放射性セシウムを吸収する危険性が高まる。
- ◆深耕により放射性セシウムを土壤中に分散させるとともに、そばの根が深く張るよう、深耕15cm以上を目標に、十分な作土層を確保する。

## 3 放射性セシウムを含む土，ほこりの付着・混入を防ぐ

- ◆適正な栽培管理（①早播きをしない ②適正な播種密度とする ③多肥栽培をしない 等）や倒伏に強い品種の選択・栽培により、倒伏を防止し、放射性セシウムを含む土壤等の異物の付着・混入による汚染を防止する。
- ◆農業機械等を使用する前に十分に清掃または洗浄し、付着している土，ほこりを落としてから使用する。
- ◆収穫時に土壤の巻き込みや異物混入を防止し、調製作業時に玄そばを磨き機で丁寧に磨くことで、放射性セシウム濃度を低減することが可能である。

### ■ この件に関する問合せ先

担当部署	電話番号
園芸振興室園芸振興班	022(211)2843